

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-293594
 (43)Date of publication of application : 20.10.2000

(51)Int.Cl.

G06F 19/00

(21)Application number : 2000-077395

(71)Applicant : KORENAGA MICHIO

(22)Date of filing : 30.07.1998

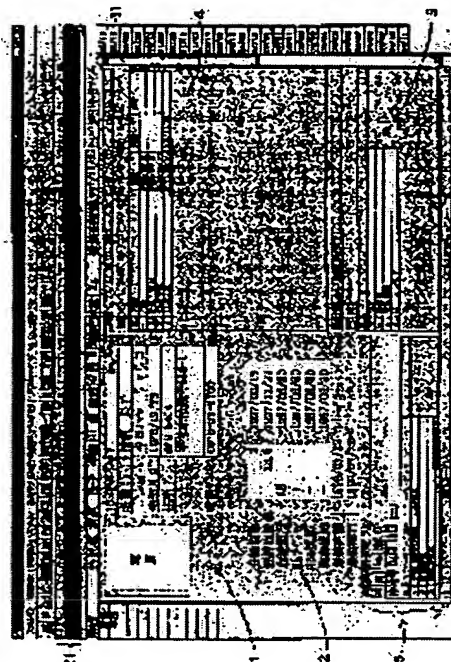
(72)Inventor : KORENAGA MICHIO
YOSHIMOTO KEIICHI

(54) ELECTRONIC MEDICAL RECORD SYSTEM WITH DATE LABELING FUNCTION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an electronic medical record system enabling a doctor to observe the past and current states of a certain patient on a screen as the whole image and observe the whole details started from one picture.

SOLUTION: The electronic medical record system for preparing and storing many medical records as electronic data is provided with a date label display means for displaying date labels 11 related to respective medical record sheets and formed in order to access a corresponding medical record sheet prepared on a date specified by a user and display the accessed sheet in the order of dates on either one of the right and left sides of a display screen for displaying the medical record sheets. Since the date label display means displays date labels on both the right and left sides of the display screen in the order of dates, it is preferable to display the date labels of dates before the date of a medical record sheet displayed at present on one side of the screen and display date labels of dates after the date of the medical record sheet opened at present on the other side.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-293594
(P2000-293594A)

(43) 公開日 平成12年10月20日 (2000.10.20)

(51) Int.Cl.⁷
G 0 6 F 19/00

識別記号

F I
C 0 6 F 15/42

データベース (参考)
H

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2000-77395(P2000-77395)
(62) 分割の表示 特願平10-230206の分割
(22) 出願日 平成10年7月30日(1998.7.30)

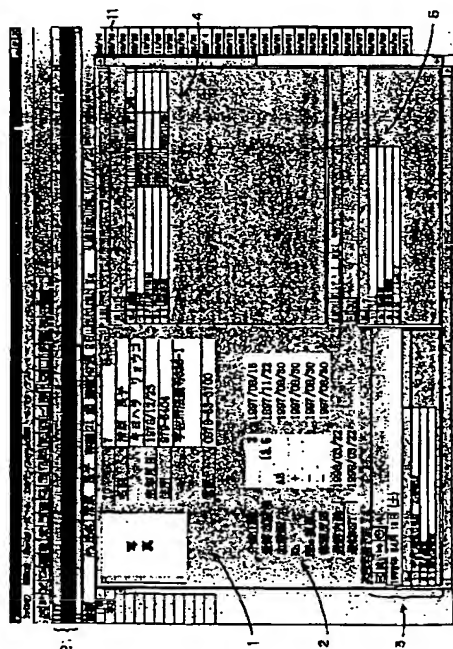
(71) 出願人 398023638
是永 迪夫
大分県宇佐市法鏡寺336の1
(72) 発明者 是永 迪夫
大分県宇佐市法鏡寺336の1
(73) 発明者 吉本 圭一
大分県中津市片端町13/1-1
(74) 代理人 100094581
弁理士 鯨田 雅信

(54) 【発明の名称】 日付ラベル機能付き電子カルテシステム

(57) 【要約】

【課題】 医師が、ある一人の患者の過去及び現在の状態を、一つの画面で全体像を一覧したり、一つの画面を起点として全体の詳細を見ることを可能にする電子カルテシステムを提供する。

【解決手段】 多数の診療記録を電子的に作成及び保存するための電子カルテシステムにおいて、診療記録シートを表示する表示画面の少なくとも左右いずれか一方の側部に、ユーザーが指定する日付に作成した診療記録シートを呼び出して表示させるための日付ラベルであって、診療記録シートと関連付けられた日付ラベルを、日付順に表示する日付ラベル表示手段、を備えたものである。前記日付ラベル表示手段は、表示画面の右端と左端の両方に日付ラベルを日付順に表示するものであり、現在表示している診療記録シートの日付よりも前の日付の日付ラベルは画面の一方の側部に表示し、現在開いている診療記録シートの日付よりも後の日付の日付ラベルは画面の他方の側部に表示するものであるのがよい。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 記載事項が多種多様で多数にのぼる診療記録を電子的に作成して一括して保存するための電子カルテシステムにおいて、診療記録シートを表示する表示画面の少なくとも左右いずれか一方の側部に、ユーザーが指定する日付に作成した診療記録シートを呼び出して表示させるための日付ラベルであって、各診療記録シートと関連付けられた日付ラベルを、日付順に表示する日付ラベル表示手段、を備えたことを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項2】 請求項1において、

前記日付ラベル表示手段は、表示画面の右端と左端の両方に日付ラベルを日付順に表示するものであり、現在表示している診療記録シートの日付よりも前の日付の日付ラベルは画面の一方の側部に表示し、現在開いている診療記録シートの日付よりも後の日付の日付ラベルは画面の他方の側部に表示するものであり、ユーザーが診療記録を一目で知ることができるようにしたことを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項3】 請求項1又は2において、さらに、前記日付ラベル表示手段により表示される日付ラベルに、入院患者用の診療記録シートか外来患者用の診療記録シートかにより異なる色、形状、又は印を付加することにより、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートが入院患者用のものか外来患者用のものかを識別できるようにした入院外来識別手段、を備えたことを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項4】 請求項1、2又は3において、さらに、前記日付ラベル表示手段により表示される日付ラベルに、外科、内科、産婦人科等の診療科毎に異なる色、形状、又は印を付加することにより、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートがどの診療科に係るものかを識別できるようにした診療科識別手段、を備えたことを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項5】 請求項1、2、3又は4において、さらに、前記日付ラベル表示手段により表示される日付ラベルに、自院の患者か他院の患者かにより異なる色、形状、又は印を付加することにより、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートが自院の患者に係るものか他院の患者に係るものかを識別できるようにした自院他院識別手段、を備えたことを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項6】 請求項1から5までのいずれかにおいて、前記日付ラベル表示手段は、診療日数が増えた結果、日付ラベルが増え、日付ラベルの全てを画面の前記側面に表示できないとき、日付ラベルの中の日付が古いものを、日付の新しいものの後ろに重ねて表示するようにすることにより、ユーザーが全診療日を認知できるように

したものであることを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項7】 請求項1から6までのいずれかにおいて、さらに、

診療記録シートを表示する表示画面の上方に、各月の区別が時系列的に認識できるようにし画面上で左右にスライドできるようにした帯状の時系列スライドバーを表示し、この時系列スライドバーの中に、今までの外来又は入院診察日、検査又は検診日、投薬又は注射日などを、各月の該当する位置に、所定のマークで示すようにした時系列表示手段、を備えたことを特徴とする電子カルテシステム。

【請求項8】 請求項1から7までのいずれかにおいて、さらに、

前記診療記録シート上に、ユーザーが任意に各種の文字データ部、図形データ部、及び画像データ部を、前記診療記録シートに貼り付けるための貼りつけ手段を備え、前記各種の文字データ部、図形データ部、及び画像データ部の位置データをも保存するようにした、ことを特徴とする電子カルテシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、医療機関における診療記録の作成及び保存をコンピュータを使用して電子的に行うようにした電子カルテシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、診療記録の作成及び保存を電子的に行うための電子カルテシステムが提案されている。しかし、これらのシステムは、例えば住民台帳の如き、台帳形式のものが多く、患者の一部の側面のみが記録されるだけであり、その上、正確な事柄の発生時間の記録も難しく、患者の全病態を適正に記録することはとてもできない。これは、既存のデータベース的入力の場合を抜け出していないためであり、また、今までは統計・集計用にコンピュータソフトが開発されてきたためである。しかし現在は、個人の一生の全体を記録するコンピュータシステムを開発することが強く要請されている。ワープロの如く自由に書けばよいとの発想からの電子カルテシステムの提案もあるが、これは時間的概念もなくデータ関連もないため、コンピュータ処理による個人の病態の全容把握はできない。また、カルテは、入院か外来かの別、科別、病院別にそれぞれに存在するのが現実であるが、これでは個人の病態の全的把握は不完全となる。入院か外来かの別、科別、病院別などに拘わらず個人の病態を一つのシステムの上にとまめて一覧できるようなシステムの提案は従来は全く為されてない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来から提案されている諸々の電子カルテシステムは、一人の患者の今までの病歴や診療録の全てを時系列に一覧したいという医師の要求に十分に答えていない。すなわち、従来の電子カル

テシステムでは、医師が、ある一人の患者の過去の時間的変遷の状態の全体像を一画面上で一覧したり、診療単位である診療日毎に記録したままの状態の詳細を見ることはできない。このことは、従来の電子カルテシステムは、従来の紙媒体によるカルテのように、医師が自由に図形や写真などを貼り付けることができない点に起因する。自由な記載が不可であるために各種診療科はそれぞれにカルテを作るのであり、これを克服すれば各科のカルテを統一することも可能になる。

【0004】本発明はこのような従来技術の課題に着目してなされたものであり、医師が、ある一人の患者の過去から現在に至る全ての発生した事柄を漏れなく迅速に把握したり、他方で、ある診療日の記事の詳細を見たりすることを可能にする電子カルテシステムを提供することを目的とする。また、本発明は、従来の紙媒体によるカルテと同様な操作性を持って、日付を持つシートの上に医師が自由に図形や写真などを貼り付けることができる電子カルテシステムを提供することを目的とする。また、本発明は、現状では入院・外来の別、科別、病院別にバラバラに散在しているカルテを一つにまとめることを可能にする電子カルテシステムを提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】このような課題を解決するための本発明による電子カルテシステムは、記載事項が多種多様であり多数にのぼる診療記録を電子的に作成し一括して保存するための電子カルテシステムにおいて、診療記録シートを表示する表示画面の少なくとも左右いずれか一方の側部に、ユーザーが指定する日付に作成した診療記録シートを呼び出して表示させるための日付ラベルであって、診療記録シートと関連付けられた日付ラベルを、日付順に表示する日付ラベル表示手段、を備えたものである。

【0006】また、本発明による電子カルテシステムにおいては、前記日付ラベル表示手段は、表示画面の右端と左端の両方に日付ラベルを日付順に表示するものであり、現在表示している診療記録シートの日付よりも前の日付の日付ラベルは画面の一方の側部に表示し、現在開いている診療記録シートの日付よりも後の日付の日付ラベルは画面の他方の側部に表示するものであるのがよい。

【0007】また、本発明による電子カルテシステムは、前記日付ラベル表示手段により表示される日付ラベルに、入院患者用の診療記録シートか外来患者用の診療記録シートかにより異なる色、形状、又は印（マーク）を付加することにより、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートが入院患者用のものか外来患者用のものを識別できるようにした入院外来識別手段、を備えるのがよい。

【0008】さらに、本発明による電子カルテシステム

は、前記日付ラベル表示手段により表示される日付ラベルに、外科、内科、産婦人科等の診療科毎に異なる色、形状、又は印（マーク）を付加することにより、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートがどの診療科に係るものかを識別できるようにした診療科識別手段、を備えるのがよい。

【0009】また、本発明による電子カルテシステムは、前記日付ラベル表示手段により表示される日付ラベルに、自院の患者（自己の医療機関にかかっている患者）か他院の患者（他の医療機関で措置を受けその内容を転送してもらっている患者）かにより異なる色、形状、又は印（マーク）を付加することにより、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートが自院の患者に係るものか他院の患者に係るものかを識別できるようにした自院他院識別手段、を備えるのがよい。

【0010】また、本発明による電子カルテシステムは、前記日付ラベル表示手段は、前記日付ラベルが多数に及ぶため画面の前記側面にそれらの全てを表示できないときは、日付ラベルの中の日付が古いものを、日付の新しいものの後ろに重ねて表示するようにするものであるのがよい。

【0011】さらに、本発明による電子カルテシステムは、診療記録シートを表示する表示画面の上方に、各月の区別が時系列的に認識できるようにした帯状の時系列表示部を表示し、この時系列表示部の中に、今までの外来診察日、入院診察日、検査・検診日、投薬や注射をした日などを、各月の該当する位置に、所定のマークで示すようにした時系列表示手段、を備えるのがよい。

【0012】さらに、本発明による電子カルテシステムは、前記診療記録シート上に、ユーザーが任意に指定した位置データと関連付けられた文字データ部、図形データ部、及び画像データ部を、前記診療記録シートに貼り付けることにより、従来の紙カルテと同様に、全ての種類のデータを入力できるようにし、発生データ、その記録位置、発生した日時（日付ラベルの日付と同じ）が一括して格納され簡単に抽出もできるようにした手段、を備えるのがよい。

【0013】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施形態による電子カルテシステムを説明する。本実施形態による電子カルテは、個々の患者を診療する毎に作成する個々の「日付ラベルを持つ診療記録シート」と、これらの診療記録シートを患者毎にまとめたものの「表紙」の部分とから構成される。

【0014】図1は本発明の実施形態における電子カルテの「表紙」の部分を表示する画面の一例を示すものである。図1において、1は、患者の顔写真、ID、氏名、住所などを表示するためのID表示部である。また、2は、患者の今までの経歴、分娩回数、最新検査に

よる血液型、血圧、梅毒反応、最終内診、最終NSTなどの最新情報を入力・表示するための最終情報表示部である。これらはユーザーの要求通りに設定できる。また、3は、患者の次回来院予定日とそのときの検査予約内容及び看護婦への指示内容などを入力・表示するための予約・指示部である。また、4は、患者の今までの診断の主要な経過の概略を入力・表示するための診断表示部である。また、5は、患者の今までの既往歴及び重要事項を入力・表示するための既往歴及び重要事項表示部である。これにより患者の概略を知ることができるようになる。

【0015】また、図2は本実施形態の電子カルテにおける、ある患者のある日時の「日付ラベル付き診療記録シート」を表示する画面の一例を示すものである。図2において、6はその日の妊婦検診の結果を入力・表示するための妊婦検診表示部である。また、7は患者からの訴えの聞き取り内容（主訴や現症）を入力・表示するための聞き取り表示部である。また、8は医師の処方箋を文字で入力・表示する処方箋表示部、9は妊婦のお腹を超音波撮影した撮影データを入力・表示する超音波撮影部、10は医師の診察結果を図形で入力・表示するための図形表示部である。これらのデータの種類、数、表示位置、表示の大きさは自由であり、ユーザーが画面上で任意にレイアウトできる。

【0016】このように、本実施形態では、ユーザーである医師は、画面表示された診療記録シートの中の任意の位置を示す位置データを、自己が作成した文字データ、画像データ、及び図形データに関連付けることができる。つまり、ユーザーは、新規作成用の診療記録シートの上で、処方箋などの文字データを作成するとき、その文字データに前記位置データを関連付けることができる。また、同様に、ユーザーは、新規作成用の診療記録シートの上で、超音波写真やレントゲン写真を貼り付けるとき、その写真などの画像データに前記位置データを関連付けることができる。また、ユーザーは、新規作成用の診療記録シートの上で、患者の患部を図示するための図形を貼り付けるとき、その図形データに前記位置データを関連付けることができる。よって、ユーザーは、従来の紙媒体のカルテと同様の感覚（操作性）で、診療記録シートの中の好きな位置に、文字・画像・図形などのデータを自由に書き込む（貼り付ける）ことが可能になる。

【0017】また、本実施形態では、電子カルテを構成する個々の診療記録シートは、画面の左右側部の縦方向に表示される日付ラベル（図1及び図2の11参照）と関連付けられて記録されている。この日付ラベル11は、診療記録シート又は表紙を表示する画面の左右の両側端に、日付順に表示される。ユーザーである医師は、これらの日付ラベルのいずれかを任意に選択・指定する（選択してクリックする）ことにより、その日付ラベル

に対応する日付の診療記録シートを直ちに画面に呼び出すことができる。ある日付の診療記録シートが画面に呼び出されたときは、それに対応する日付ラベルの色が反転するので、ユーザーは、今の画面の診療記録シートの日付を容易に知ることができる。なお、図1の画面の例では、日付ラベルは、図の右側端に日付順に表示されている。また、ユーザーは、図1の左上端の「本日」というラベルを選択してクリックすることにより、白紙の新規作成用シートを表示させて、これに診察日当日の診療記録シートを新規に作成することができる。また、ユーザーは、図1の左上端の「診断」というラベルをクリックすることにより、その患者の電子カルテの「表紙」の画面に戻ることができる。

【0018】また図2の例では、画面の右端と左端の両方に、日付ラベルが日付順に表示されている。この図2の例では、現在開いている（画面表示している）診療記録シートの日付よりも前の日付（より古い日付）の日付ラベルは、画面の図示左端に表示し、現在開いている診療記録シートの日付よりも後の日付（より新しい日付）の日付ラベルは画面の図示右端に表示するようにしている。

【0019】また、図3は本実施形態の日付ラベルを拡大して示す図である。本実施形態では、前記日付ラベルは、各診療記録シートに関する情報をも付加的に表示できるようになっている。まず、本実施形態では、日付ラベルの図示右端に、所定の印（マーク）を付加することにより、その診療記録シートがどの診療科に係るものかを識別できるようになっている。すなわち、図3において、日付ラベル11の右端に四角のマーク12があるものは外科、日付ラベル11の右端に丸のマーク13があるものは内科を示している。よって、ユーザーは、この日付ラベル11の右端のマーク12、13を見るだけで、その日付の診療科が分かるようになる。

【0020】また、本実施形態では、外来患者の診療記録シートの日付ラベル11と入院患者の診療記録シートの日付ラベル11とは、異なった色で表示するようにしている。図3の例では、「01/15」、「01/16」、「10/17」の3個の日付ラベル11（図3の符号14を参照）が、例えば黄色に着色されている。これにより、本実施形態では、日付ラベルの色を見るだけで、それが外来患者のものか入院患者のものを判別できるようになっている。

【0021】また、本実施形態では、自院の患者（自己の医療機関にかかっている患者）か他院の患者（他の医療機関で措置を受けその内容を転送してもらっている患者）かにより、診療記録シートの形状を変えるようにしている。自院の患者の場合は、図3に示すような通常の長方形のラベルとなっているが、他院の患者の場合は、図4に示すような右端に2つの切り欠き15が形成された形状の日付ラベルとなっている。これにより、ユ

ーザーは、日付ラベルの右端の形状を見るだけで、自院の患者か他院の患者かを判別できるようになっている。

【0022】さらに、本実施形態では、日付ラベル11が多数に上るために画面の左右側部にその全てを表示できないときは、日付の比較的新しいものだけを前面に表示して、日付の比較的古いものはその後ろに重ねて表示するようにしている。すなわち、図3に示すように、“08/15”、“08/16”、“09/26”などの系列の比較新しい日付の日付ラベル11は前面に表示する（前列に表示する）が、一番上の日付列（画面の前面の日付列＝前列）では表示することができない古い日付のものは、図2の符号11aで示すように、日付ラベル11の後ろに重ねて表示する（後列に表示する）ようにしている。新しいシートが作られるたびに表示された日付列（前列）の中の一番古いものが後列にまわる。ユーザーは、この重ねて表示されているのを見て、前面に表示されたものよりも古い日付のものが存在していると判断できるので、その重ねられたラベル11aを選択してクリックすれば、その古い日付ラベル11aに対応する診療記録シートを呼び出して画面表示することができる。

【0023】次に、本実施形態では、図1及び図2に示すように、電子カルテを構成する表紙や個々の診療記録シートの上に、横方向に延びる時系列スライドバー21を表示するようにしている。図5はこの時系列スライドバー21を拡大して示す図である。図5に示すように、この時系列スライドバー21は、上方の年月を表示する年月表示部22と、下方のマーク表示部23とから構成される。マーク表示部23は、図の上下方向に、例えば23a、23b、23c、23d、23eの計5層から構成されている。そして各層は、それぞれ、来院日、検査日、注射の日などを所定のマークで入力できるようになっている。図5の例では、層23aでは、尿検査をした日を示す四角のマーク24が、年月表示部22の対応する位置に表示されている。また、層23bでは、レントゲン撮影をした日を示す丸のマーク25が年月表示部22の対応する位置に表示されている。また、層23cでは、心電図をとった日を示す三角のマーク26が年月表示部22の対応する位置に表示されている。なお、層23d、23eは、この例では、当面使用されていない。本実施形態では、前記各層23a～23eを、何を示すために使用するかは、ユーザーが自由に決めることができる。

【0024】また、本実施形態では、前記時系列スライドバー21は、マウスでクリックしたままドラッグすることにより、横方向に任意にスライドできる（この場合、年月表示部22とマーク表示部23は一体にスライドする）。したがって、ユーザーは、この時系列スライドバー21をスライドさせながら参照することにより、その患者の初診から最近までの長期間の主な診療状況（来院の頻度、検査の流れなど）を、何年にも渡って、

簡単に一覧で知ることができる。

【0025】以上に述べたように、本実施形態によれば、時系列スライドバー21により今までの何年間かの長期の診療の流れが容易に把握できると共に、日付ラベルにより任意の日付の診療記録シートを素早く取り出して表示させることができるので、従来の紙媒体によるカルテの操作性を保ちながら、過去の診療記録の日付などによる検索を容易性や保存性を向上させた電子カルテシステムを実現することができる。

【0026】なお、本実施形態では、診療記録シートが入院患者のものか外来患者のものかを日付ラベル11で識別するために日付ラベル11を色分けするようにしているが、本発明はこれに限られるものではなく、日付ラベルに所定の印（マーク）を表示させたり、日付ラベルの形状を変えることなどによっても、同様の識別を行うことができる。また、本実施形態では、診療記録シートの診療科を判別するために日付ラベル11に所定の印（マーク）を表示するようにしているが、本発明はこれに限られるものではなく、例えば、日付ラベルの形状を診療科毎に変えたり、日付ラベルの色を診療科毎に変えることによっても、同様の判別を行うことができる。さらに、本実施形態では、診療記録シートが自院の患者のものか他院の患者のものかを判別するために、日付ラベルの形状を変えるようにしているが、本発明はこれに限られることなく、例えば、自院の患者か他院の患者かにより日付ラベルの色を変えたり日付ラベルに所定の印（マーク）を付加することによっても、同様の判別を行うことができる。

【0027】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、個々の診療記録シートを日付ラベルと関連付けて保存するようにしているので、ユーザーである医師は、日付ラベルを選択するだけで、多数の診療記録シートの中から、見たい診察日の診療記録シートを容易に素早く呼び出して表示させることができる。

【0028】また、本発明では、前記日付ラベルの表示に当たって、現在表示している診療記録シートの日付よりも前の日付（古い日付）の日付ラベルは画面の一方の側部（例えば左端）に表示し、現在開いている診療記録シートの日付よりも後の日付（新しい日付）の日付ラベルは画面の他方の側部（例えば右端）に表示することにより、ユーザーは、現在表示している診療記録シートの前の診療記録シートと後の診療記録シートの選択・指定がより容易に行えるようになる。

【0029】また、本発明では、前記日付ラベルに、診療記録シートが入院患者用のものか外来患者用のものかにより異なる色、形状、又は印を付加するようにしているので、ユーザーは、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートが入院患者用のものか外来患者用のものかを容易に判別できるようになる。

【0030】また、本発明では、前記日付ラベルに、外科、内科、産婦人科等の診療科毎に異なる色、形状、又は印を付加するようにしているので、ユーザーは、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートがどの診療科に係るものかを容易に判別できるようになる。

【0031】また、本発明では、前記日付ラベルに、診療記録シートが自院の患者のものか他院の患者のものかにより異なる色、形状、又は印を付加するようにしたので、ユーザーは、前記日付ラベルの表示から、これに関連付けられた診療記録シートが自院の患者に係るものか他院の患者に係るものかを容易に判別できるようになる。

【0032】また、本発明では、前記日付ラベルが多数に及ぶため画面の前記側面にそれらの全てを表示できないときは、日付ラベルの中の日付が古いものを、日付の新しいものの後ろに重ねて表示するようにしたので、診療記録シートが極めて多数に上る場合でも、ユーザーが希望する日付の診療記録シートを取り出す操作性を確保することができる。

【0033】また、本発明では、表示画面の上方の帯状の時系列スライドバーに、今までの外来診察日、検査・検診日、薬液注入日などを、各月の対応する位置に、所定のマークで示すようにしたので、ユーザーは、この時系列スライドバーをスライドさせるだけで、今までの何年間かの長期間の診療の過程を一覧して容易に把握することができる。

【0034】さらに、本発明では、前記診療記録シート上に、処方箋などの文字データ部、患部などを示す図形データ部、及び超音波写真などの画像データ部を、ユーザーが診療記録シート上で任意に指定した位置を示す位置データと関連付けて、前記診療記録シートに貼り付け

ることを可能にしたので、ユーザーである医師は、従来の紙媒体によるカルテと同様の操作性をもって、前記診療記録シートの好きな場所に自由に、様々なデータを書き込むことが可能になる。

【0035】以上のように、本発明によれば、ユーザーが自由に記録できる診療シートを使用して、従来は書式が違ふことでやむなく散在していた外来・入院別、各科別、各病院別のカルテを一つのシステムに統一することが可能になる。よって、個人情報の一元化が可能になるため、診療上のメリットは計り知れない。また、ユーザーは、診察日時や診察場所の違いを、ラベルにより迅速に把握できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態による電子カルテの表紙を表示した画面の一例を示す図である。

【図2】 本実施形態による電子カルテの個々の診療記録シートを表示した画面の一例を示す図である。

【図3】 本実施形態における日付ラベルを示す図である。

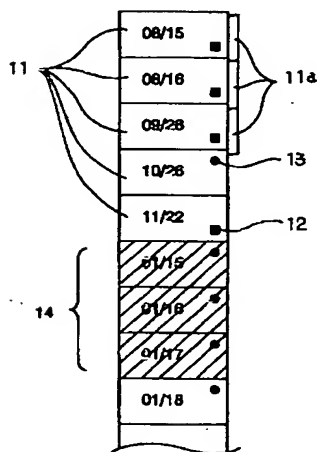
【図4】 本実施形態における日付ラベルの他の例を示す図である。

【図5】 本実施形態における時系列スライドバーを示す図である。

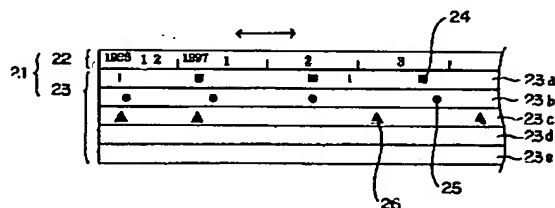
【符号の説明】

- 11, 11a 日付ラベル
- 12, 13 印（マーク）
- 15 切り欠き
- 21 時系列スライドバー
- 22 年月表示部
- 23 マーク表示部
- 23a～23e 層
- 24, 25, 26 印（マーク）

【図3】



【図5】



BEST AVAILABLE COPY

[illegible]

【図4】

